



# HIGA NEWS

2026年2月 第66号

編集・発行 一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 (HIGA)



会員の撮った一枚

平和への祈り 原爆死没者慰靈碑前にて

## 被爆80年記念事業を振り返って



被爆80年を迎えた2025年、広島市では被爆者の慰霊や平和文化の振興をテーマに多くの記念事業が実施されました。

ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)も、市や県の事業に通訳などで携わるとともに、独自の記念行事を開催しました。専門家を招いて原爆被害やヒロシマの歩みを改めて学び、通訳・ガイドの役割を考えました。被爆後80年が経ち、被爆体験の継承が難しくなる中、ヒロシマを伝えるという責任あるミッションへの思いを、いっそう強くした一年となりました。

(2、3ページに関連記事)



# 文化講演会「被爆80年記念講演会」

英語会員 三芳 知子

7月12日、TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前にて、HIGA文化講演会「被爆80年記念講演会」が開催されました。

畠崎雅子会長の開会挨拶では、被爆80年という節目を迎えるにあたり、広島を訪れる人々にその歴史や思いを正しく伝えることがガイドの重要な役割であり、広島の過去・現在・未来を深く学ぶことで何らかの形で貢献したいという思いから、講演会の開催に至った旨が述べられました。当日は一般・HIGA会員を合わせて会場80人、オンラインで240人の合計320人の参加がありました。

## 第一部：基調講演

「ヒロシマ」とは、「原爆被害」とは何かをあらためて考える

講師に広島大学理事補佐（平和担当）で平和センターの川野徳幸教授をお招きし、外国人に広島を伝える通訳ガイドが知っておくべきこと、伝えていくべきことについて、被爆証言研究を踏まえた

5つのテーマ：1)

「ヒロシマ」とは何か

2) 被爆者の「平和」・被爆者の思い

3) 摺れる「平和」 4) 原爆被害とは何か

5) 何を伝えるのか で講演いただきました。原爆被害は人間の生活全般、つまり健康、精神、社会・経済生活面に及び、これら被害が相互に深く関連している。そのため、原爆被害を理解するには社会学、医科学など多岐にわたる知識が求められ、ガイドにも幅広い知識が必要。またガイドは継承者としての役割を担っており、伝えるための知識や経験を自分たちの「引き出し」に蓄えていくように、とのお言葉をいただきました。



## 第二部：パネルディスカッション

通訳ガイドを通じて伝える被爆と平和

近年の訪日外国人急増を受け、広島のガイドの役割や伝え方についてパネリストの皆様にご提言いただきました。モデレーターは八幡毅副会長。



第一部ご講演に続き川野教授、広島県地域政策局平和推進プロジェクトチームの山本浩平和推進担当課長、中国新聞ヒロシマ平和メディアセンターの金崎由美センター長にご登壇いただき、平和の重要性を伝えるための活動内容や理念、これまでの歩み、現在の取り組み、そして直面している課題について語っていただきました。

当日ご欠席された広島平和記念資料館の石田芳文館長からは「被爆者の方が訴えてこられた、このような思いは他の誰にもさせてはいけない、という平和への思いを通訳ガイドの皆さんに伝えていただきたい」というメッセージが寄せられました。

被爆の実相を伝えるには学びが不可欠であり、様々な文化や多様な背景を持つ人々に伝える難しさは多くのガイドが実感しているところだと思います。

講演会を通じて、ヒロシマを伝える責任と知識の重要性を再認識し、ご紹介いただいたウェブサイトや刊行物、講座などを活用し、平和の思いを継承するために学び続ける決意を固めました。



## 第2回学習会

### 「被爆80年 鎌田七男先生講演会」に参加して

英語会員 中西 美代子

8月30日、広島平和記念資料館地下会議室で開催された、広島大学名誉教授、鎌田七男先生による「詳解『広島のおばあちゃん』：0 (HIGA) & A」と題した講演会に参加させて頂きました。鎌田先生から詳しくご講義いただいた内容について、以下にまとめました。



#### 残留放射線(誘導放射線および核分裂生成物)について

誘導放射線とは、初期放射線である中性子が物質や金属に衝突し、その結果として二次的に放射化されて発生する「跳ね返り放射線」のことであり、約2週間から1か月ほどで消滅する。一方、核分裂生成物は気化して上空へ上昇したものが冷えて「黒い雨」となって降下し、雨水や米、野菜、川魚などから体内に入り、内部被曝をもたらす。

#### 年間線量について

普段我々が取り込んでいる放射線は年間で約2.4mSv(ミリシーベルト)であり、その上で余分に取っていいのは1mSvまでである。

(胸部レントゲン0.06mSv、胸部CTは6.9mSv。胃の透視は0.6mSv→胃検査は内視鏡が望ましい)

#### 被爆の4つの分類について

第1の被爆：初期放射線による被爆(直接被爆者)

第2の被爆：原爆投下後2週間以内に爆心地から2km以内に入市し被爆(入市被爆者)

第3の被爆：放射化した物体に触れたり、放射性物質を鼻や口から取り込むことにより被爆(救護被爆者、黒い雨被爆者)

第4の被爆：母親の胎内で被爆(胎内被爆者)

また、被爆による多重がん罹患の色々な症例や、浴びた線量と罹患との関連、核分裂生成物(黒い雨)の被害についても詳しくお話しして下さい、質疑応答の時間も取って下さいました。

文系人間の私にとってはとても難しい内容でしたが、このような機会がないと知り得ないような貴重なお話を聞けて大変勉強になりました。

## 仕事の現場から

### 被爆80年を迎えて

副会長・英語会員 八幡 毅



被爆80年を迎えた2025年、ひろしま通訳・ガイド協会(HIGA)は、広島大学の川野徳幸教授や行政・メディアのキーパーソンをお迎えしての講演会・パネルディスカッション、さらに被爆者医療の第一人者である鎌田七男先生の講演会を開催し、広島市などの記念行事にも通訳として参画しました。私自身も、被爆と復興に関するJICA研修の講師を多数務め、記念行事に携わる機会も頂きました。こうした活動を通じ、広島の通訳・ガイドが担う役割の重さを改めて実感しています。

他地域のエージェントやガイドからは「HIGAのガイドは仲が良い」との声を度々頂きます。また、「広島のガイドは一種のミッションを共有しているようだ」と評されることもあります。確かに、平和記念公園などをご案内する際には、被爆の実相と復興の歩みを伝える使命感が自然とにじみ出ているのかもしれません。

広島を訪れるお客様の多くは被爆の実相に強い関心を持ち、広島だけガイドを付けられる方も少なくありません。熱心に耳を傾け、さまざまな意見や質問を投げかけながら、私たちの説明を真剣に受け止めてくださいます。

広島の通訳・ガイドには、国際コミュニケーションのプロとして、聞き手にも十分配慮した言葉と文脈で広島の体験を伝えることが求められています。HIGAの仲間とともに、この貴重なミッションをこれからも引き継ぎ、世界へ発信し続けたいと思います。

# 「第20回世界バラ会議福山大会」を振り返って

理事・英語会員 檀浦 千里

世界28か国から723人のお客様をお迎えし、5月18日から24日まで、「第20回世界バラ会議福山大会」が開催されました。第18回コペンハーゲン大会での投票により、ばらを中心据えた官民一体での福山市の取り組みが評価され、開催が決定したのです。

大会期間中、午前は、国内外のばらに関する講義、午後は広島県内を中心とした庭園や植物園を視察するデイツアーが行われました。さらに大会の前後には、世界各国から集った参加者向けに福山発日本各地へのツアーもあり、日本の素晴らしさを体験していただきました。これらのコースの案内には、HIGAの福山在住の会員はもとより、広島市や他地域の会員もガイドとして参加しました。全体では、合計14人、延べ62日の就業となりました。

私の担当したデイツアーのコースには、小学校と地域の皆様が力を合わせてばら園を造成、管理されている福山市立金江（かなえ）小学校が含まれていました。英文を書いたプリントを

手に、身振りも交えた一所懸命な小学生の説明を、参加者の皆様は笑顔で聞き入り、時間がオーバーすることも度々でした。

大会後には、「国際MICE受け入れの環境整備」という内容で、福山市の枝広直幹市長より直々に感謝状を頂き、私達の活動を評価していただいたことは、嬉しい驚きでした。1分1秒も無駄にしたくない、という参加者の皆様の熱意と、最終日の雨もばらのためには歓迎するという優しさ。私にとって、どこを切りとっても印象に残る忘れられない体験となっています。

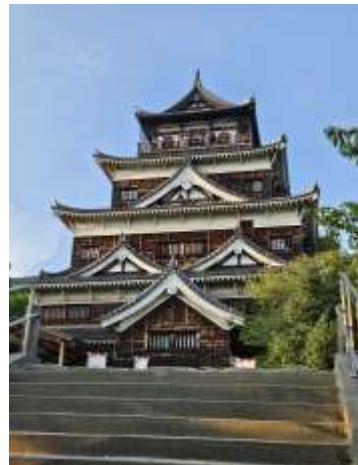


デイツアーで訪問した広島市植物公園内のばら「アイキャン」

## 広島城閉城！その後は？？

広島城天守閣は安土桃山時代に築城されましたが、1945年の原爆により倒壊しました。その後、1958年に倒壊前の外観を再現する形で、鉄筋コンクリート造で再建されました。現在は、広島の武家文化を紹介する博物館として利用され、多くの市民や観光客に親しまれていますが、コンクリートの劣化や施設の老朽化を理由に、今年3月22日をもって閉城します。

今後、広島城の博物館としての役割は、今年秋に広島城三の丸エリアに開館する「広島城三の丸歴史館」に引き継がれる予定です。三の丸エリアでは数年前から整備工事が進められており、昨年



3月末には第1期エリアが完成しました。現在は、飲食店や土産物店のほか、弓道を体験できる施設が営業しています。博物館は、その北側に第2期エリアとして開業する計画です。

では、広島城天守閣は今後どうなるのでしょうか。市民の間では、「木造で再建されるんじやろ」といった噂も聞かれます。広島市の公式ウェブサイトによると、現在、天守群の復元に向けて基礎的な検討や調査を行っている段階で、その結果を踏まえて今後の方針を決定するとしています。現時点では天守閣を解体する予定はなく、当面は外観を楽しむことができるようです。

参考までに、近年木造で再建された天守閣は、白石城（宮城県）、白河小峰城（福島県）、新発田城（新潟県）、掛川城（静岡県）、大洲城（愛媛県）の5城のみです。2018年に閉館した名古屋城天守閣でも木造再建計画が進められていますが、完成は当初目標の2022年頃から大きく遅れています。広島城は今後どうなるのか、気になるところです。



〒739-0522 広島県廿日市市宮島町もみじ谷  
TEL 0829-44-2233 <http://www.iwaso.com/>



# 研修旅行 「刀剣博物館・備前焼の里・旧閑谷学校」

英語会員 本田 浩子

12月6日、キリリとした快晴の空の下、研修旅行「刀剣博物館・備前焼の里・旧閑谷（しづたに）学校～日本の精神に出会う～」に参加しました。午前8時、満席のバスは研修旅行グループの田中慎也会員による軽妙な司会で盛り上がりつつ、広島駅を後にしました。

車中では訪問先に関する情報満載のトークを楽しみ、福山SAを経由して岡山県の備前長船刀剣博物館へ。実物は非公開でしたが上杉謙信・景勝の愛刀と伝わる国宝「太刀無銘一文字（山鳥毛）」の説明を塩田勇館長から伺いました。5億円超えの購入にはクラウドファンディングが活用されたとのこと。長船が優れた刀匠の地となつた理由、鑑賞の仕方、作刀には6～7つの分業工程が必要なこと等を伺いました。展示室の名刀は美しくも冷たい輝きを放ち、殺傷能力を思うとゾクッときますが、日本人にとっての宗教的・精神的意味合いを具現した美術品として、海外の人からも高く評価されていることが納得できます。

「お食事処あさひ」で海山の幸いっぱいの昼食を楽しんだ後、伊部（いんべ）に移動し備前焼工房「茅葺きギャラリー陽山居」と伊部南大窯跡へ。古墳時代の須恵器に始まり、生活雑器や



旧閑谷学校講堂（国宝）にて

瓦として広まり、磁器の普及で一時衰退するも美術工芸品として復活したという備前焼の長い歴史の中に、簡素で渋い美しさの理由が在ることが解ります。一見捨てられた陶器の破片の山にしか見えない南大窯跡は、ボランティアガイドさんの熱意溢れるご説明で、かつて「大釜」と呼ばれた時代の壮大な規模が想像され、圧巻の史跡として目に映りました。

最後の訪問地、旧閑谷学校は足を踏み入れた途端に漂う空気の清浄さにハッとさせられます。17世紀後半、日本最古の庶民の為の公立学校として開かれ、各建築は簡素でありながらも学問の殿堂に相応しい格式と佇まいを備え、創建の精神性の高さが肌で感じられます。

華やかさや雅さとは別の日本の美しさをどう伝えるか、考えつつ終えた充実の一 日でした。

## 『HIGA NEWS』が広島県立図書館所蔵の郷土資料に

広島県立図書館では、広島県や瀬戸内海に関する資料をはじめ、調査研究に役立つ資料(図書・パンフレット・視聴覚資料等)の収集を積極的に行い、広く県民の利用に供するとともに、後世に伝えるために大切に保存しておられます。

この度、同館から当協会発行の本紙『HIGA NEWS』のバックナンバー寄贈のご要望があり、創刊号から最新の65号までを送付させていただきました。また今後の発行号も継続してお届けする予定です。広島の魅力をガイド線で伝える『HIGA NEWS』を、郷土資料としてお役立ていただけることに編集関係者一同感謝しております。

なお、『HIGA NEWS』は今号から年1回の発行となります。引き続き紙面の充実に努めてまいりますので、ご愛顧のほどよろしくお願ひいたします。

## HIGAの活動報告(2025年5月～2026年2月)

6月 1日(日)新人研修会(全国通訳案内士・地域通訳案内士・HIGA会員対象、現地研修)

7月12日(土)文化講演会「被爆80年記念講演会」

第一部:基調講演「ヒロシマ」とは、「原爆被害」とは何かをあらためて考える

講師: 川野徳幸 広島大学理事補佐・平和センター教授

第二部:パネルディスカッション「通訳ガイドを通じて伝える被爆と平和」

パネリスト: 川野徳幸 広島大学理事補佐・平和センター教授

山本浩 広島県地域政策局平和推進プロジェクトチーム平和推進担当課長

石田芳文 広島平和記念資料館館長

金崎由美 中国新聞ヒロシマ平和メディアセンター長

8月24日(日)多言語・広域会員グループ意見交換会

8月30日(土)学習会「被爆80年 鎌田七男先生講演会」演題「詳解『広島のおばあちゃん』：Q(HIGA)&A」  
講師: 鎌田七男 広島大学名誉教授・同大学原爆放射線医科学研究所元所長ほか

11月29日(土)通訳案内研修 法定研修(オンライン)

12月 6日(土)研修旅行「刀剣博物館・備前焼の里・旧閑谷学校～日本の精神に出会う～」

# HIGA新人研修 初めての宮島・広島1日ツアー

HIGA新人研修

英語会員 森川 幸恵

6月1日、晴天に恵まれ、9人で研修が始まりました。実際のガイドを想定した宮島・広島の8時間コースです。最初にガイドが自己紹介をし、続けてドライバーさんの紹介もすることで、お客様から話しかけやすい雰囲気を作ることが大切。またドライバーさんは、駐車場で待機し、ちょうどどのタイミングで迎えに来ていただくなど、ツアーを支えていただく大切なパートナーだと学びました。

今年の新人研修では、1人が4か所の説明を担当しました。本番でも必ず説明する内容なのでとても良い機会でした。実際にやってみると、暗記したことを思い出すことに集中してしまい、参加者の理解度を考える余裕がなかったのが大きな反省点です。講師の長尾光恵会員より説明のポイントやマイクの使い方、立ち位置、またこれまでのガイド経験に基づく時間配分なども教えていただき大変勉強になりました。他の方がガイドをされているのを聞いて初めて気が付くことも多く、観光地の魅力を改めて知ることができました。

実際にガイドをしてみると、宮島での滞在時

間は思ったよりも短く感じました。宮島にはたくさんの名所がありますが、今回はコースに含まれていた厳島神社以外を案内する時間の余裕はありませんでした。ランチや移動にも時間を要するため、ゆっくり見学していただきたい反面、次の予定を考えて行動を促す

のは、実際にお客様を前にすると難しいだろうと思いました。経験を重ねながら上手く誘導できるよう、今後心がけていきたいと思います。

お客様の国籍や年齢、興味対象は毎回違います。お客様が再度広島を訪問されるかどうかは分かりません。一度しかない訪問ならガイドの役割はなおのこと大きいです。私は過去に接客業に携わったとき、一期一会の気持ちで対応してきました。このガイド業も、まさにその精神を大切にしたいと強く思う研修となりました。



## 【ご協力ありがとうございます】 ~with sincere thanks~

HIGA賛助会員の皆様（2026年2月現在 順不同、敬称略）

団体会員： 広島商工会議所 広島トヨペット（株）（有）はやし

JTB協定旅館ホテル連盟広島支部 つばめ交通（株）（株）藤い屋

（一社）広島県観光連盟 カフェ・ポンテ 岩惣 広島県民文化センター

東洋観光（株）（株）JTBグローバルマーケティング&トラベル

個人会員： 古谷 英明 延本 真栄子 藤井 倫子 清水 憲吉 辻 孝和

吉井 敏弘 河野 博行 くらわんか 青野 重信 藤井 芳子

田島 謙治 花やしき 敏崎 辰登



賛助会員としてご協力くださる団体、個人の方を募集しています。ぜひこの機会に入会をご検討ください。お預りいたします。年会費は一口につき団体会員2万円、個人会員5千円です。団体会員には、HIGA NEWS に広告掲載の特典があります。

お申込み、お問合せは当協会事務局 082-245-8346（月～金 11:00～16:00）まで。

本誌へのご感想・ご意見をお寄せください。HIGA事務局へEmail：[higa@urban.ne.jp](mailto:higa@urban.ne.jp) でどうぞ。

【表紙の写真・文】 英語会員 大川 富美

【編集後記】マチュピチュを訪れた。お願いしたガイドは、20年以上世界中のゲストを案内してきたという。豊富な知識に加え、百戦錬磨の技術で、めまぐるしく変わる天候さえ味方に付ける。虹とともに最高のアングルで写真を撮り、神への深い敬意を静かに語ってくれた。一生に一度の旅をかけがえのない時間にしてくれた彼。AIがどれほど進化しても、旅を輝かせるのはやはり「人の温度」だ。（く）

